

「令和4年度 飛島村教育委員会に関する
点検及び評価報告書」の意見聴取会
【まとめ】

令和5年6月23日開催

飛島村教育委員会

意見聴取会（要旨）

《招集年月日》 令和5年6月23日（金）

《招集の場所》 飛島村中央公民館 3階 第1会議室

《開会》 午前10時00分

《閉会》 午前11時18分

《点検評価委員》

名古屋芸術大学 教授	溝口 哲夫 氏
愛知教育大学 教授	風岡 治 氏

《欠席委員》 なし

《職務のため出席した職員》

教育長	萩 野	登記代
教育部長兼教育課長	奥 村	義 明
生涯教育課長	加 藤	悦 久
教育課主幹	福 田	誠
図書館兼プール館長	鈴 木	勝 次
教育課係長	伊 藤	幸 丈

《委員会議事内容及び経過》

別紙の通り

別紙

《委員会議事内容及び経過》

1 教育長あいさつ

6月下旬となり、梅雨らしい天気が続いています。本日は、名古屋芸術大学の溝口哲夫先生と愛知教育大学の風岡治先生にお越しいただき、令和4年度飛島村教育委員会に関する点検及び評価の報告書の意見聴取会を開催させていただきます。先生方には、ご多用の中、ご出席をいただきありがとうございます。この意見聴取会も、今回で16回目となります。これまで、学識経験者の皆様から教育委員会の事業について貴重なご意見をいただいています。コロナに翻弄された3年間でしたが、5類への移行に伴い、様々な活動が戻って来ています。今回も、対面でご意見をいただき、見直す機会にしたいと考えています。報告書を基に、担当からの説明に基づき、質問をいただきながら進めていきたいと考えています。この意見聴取会が実りのある会議となりますことを願っています。本日は、よろしくお願いいたします。

2 教育委員会に関する点検と評価報告書について

意見聴取

- (1) 「Ⅰ 飛島村の教育指針」から「Ⅲ 教育に関する事務の点検評価」について
- (2) 「Ⅳ 教育委員会の取組について」
- (3) 「Ⅴ 主な事業の取組状況」「1 学校教育・青少年健全育成」について

【溝口委員】

義務教育学校「飛島学園」の現状、成果・課題についての記載がないが教えていただきたい。9年間の連続性のある一貫教育とは具体的にどのような取組がなされているのか。特に6・3制の教育制度から生じている中1ギャップの解消につながる効果がみられるのかどうか。全国から注目されているところであると思うことから、教育委員会としての見解を毎年触れられると良いのではないかと。

私の地元でも小学校の卒業式には、中学校の制服で出席するというようなところもあり、このようなことから中学生になるという意識が生じていると思う。義務教育学校となってからは、子どもの意識は怎么样了かお聞きしたい。

【教育課主幹】

「飛島学園」においては、3つの柱 英語、ICTふるさと教育を軸に取り組んでいる。英語につきましては、生涯教育課と連携し、海外派遣事業に合わせ1年から9年生までの英語学習のカリキュラムについて検討をしている。英語でコミュニケーションがより取れるような生徒の育成を目指している。

ICTの活用については、タブレットの効果的な活用について検討を行った。各学年で実践した活用法については、ICT支援員を中心に共通理解を図るように進めた。また、学校の学びを家庭にもつなげられるように、タブレットの持ち帰りについて検討を重ねてきた。このことについては、令和5年4月から持ち帰りを開始している。

ふるさと教育については、1月から生活科と総合的な学習の時間等を交えた「飛島未

来探究科」の取組について検討を開始した。学習の内容、計画、狙いなどについては、令和5年4月から試行をしながら見直しをし、今後につなげていきたい。

また、中1ギャップ解消について飛島学園では、5年生から7年生を中等部とし、教科担任制などを含め、前期課程と後期課程の教員が全生徒を把握し、情報交換をすることで、問題の早期発見に努めている。一部の生徒については、6年生ごろから休みがちになったが、継続的な支援を重ね、少しずつ学園に足が向いてきた生徒もいる。

【溝口委員】

働き方改革について、全国的に進められてはいるが、具体的にどのように改善されてきたかが見えてこない。飛島村では、どのような取組がなされているかをお聞きしたい。

【教育課主幹】

働き方改革としては、職員の朝夕の打ち合わせをなくし、校務支援システムが入っているタブレットを活用して実施している。村雇用の非常勤講師を多く雇っていただいているので、他の学校に比べて教員1人に対する授業時間数も少なくなっている。そのため、授業時間後に行っていた学年会や生徒指導部会を時間割の中に組み込むことで、負担の軽減を図っている。

また、部活動についても、ガイドラインに基づき、平日の活動時間90分、休日の活動時間3時間と決め、土日の片方は休日を設けている。

【溝口委員】

教科担任制を取りやすくなっていると思うが、このことで授業数は増えるのか。また、調整して増えないようにしているのか。県の方から配置はされているのか。

【教育課主幹】

昨年度は、前期課程における県からの専科教員の配置がなかったので、村雇用の非常勤講師にて賄っていた。後期課程については、学級数が5クラスに対して、理科であれば2名が配置されたので、5クラスを2名で受け持つとなれば、余剰人員ができ、前期課程の理科に乗り入れる等の対応をした。

【溝口委員】

義務教育学校は、全国的にも注目されていると思うが、先生達の業務がどのようになっているかが見えていないので、そのことも記載されると良いと思い、お聞きした。

【風岡委員】

教育委員会の取組について、これまではコロナ禍ということで実施できていなかった事業も令和4年度からは通常に取り戻して事業を実施していることは報告書から理解できた。溝口委員からもご指摘のあった現代的な教育課題と言われている働き方改革について、次の教育大綱との関連性にもなってくると思うが、村の施策については教育委員会の取組では確認ができなかった。小中一貫校から義務教育学校への移行については、順調に移行がされていると思う。総合教育会議について、当初は年3回開催がされていたが、現在は年1回となっているが、教育委員会と総合教育会議との関係と議題についてどのように分けられているのかをお聞きしたい。総合教育会議については、教育大綱の内容を決めるということは、議事録から理解ができたが、教育委員からすれば、同じような会議であると感じているのではないかと思う。教育委員会の会議録についてホー

ムページ上で見つけられなかったもので、もし公開をしていたら教えていただきたい。外部から見たときには、教育委員会と総合教育会議の双方の議事録を公開した方が取組について理解しやすいと思う。

具体的な事業として、学校教育と青少年健全育成では、ICT機器の整備と活用が着実に進められており、他の市町村と比べて一步進んだ教育実践が伺える。学習用タブレットの活用については、持ち帰りの実施が、不登校生徒への支援や新型コロナによる休校へのトラブル対応に効果があったことが伺える。今後は、授業の改善に向けた取組として授業の復習や予習で利用するなど、学習用タブレットを日常的な道具として使うことが次のステップに向けての取組になっていくと考える。水泳授業への指導員派遣については、コロナ禍での対応、教員の指導力の向上、教員の負担軽減との関連からもとても意義のある取組であると思う。飛島学園は、学校にはプールがなく隣の施設プールを活用しており、今後は生涯学習施策と学校教育をうまく関連付けていくと良いと思う。他の市町村は、プールの維持管理の観点から民間委託に切り替えるという事例が出てきており、村の事業はそのような観点を踏まえた事業で良いと思う。減農薬野菜を使用した給食については、地域の地場産業や地域の食文化を通じた「食育」として、とても有意義な事業であると思う。私も一昨年に減農薬野菜給食を食べさせていただいた時に、子ども達が減農薬野菜給食ということ意識していることが、とても素晴らしい事業であると感じた。

小中一貫教育の検証等では、中1ギャップについて子ども達の成長と意識の変化を見て来られたということであるが、創意工夫を凝らした教育課程の編成という観点で9年間の連続性のある一貫教育については、今後の小中一貫校や義務教育学校のモデルケースになると感じている。外部講師の活用や5年生以上に対する教科担任制については、総合的な学習の時間を活用した新たなカリキュラム開発との関連性を踏まえ、学習指導要領に示す「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて取り組んでいただくことを期待している。この実現には、市民科教育という取組にもなっていくと思う。

スクールソーシャルワーカーや就学支援コーディネーターを配置されたということで、いじめや様々な課題を持った生徒への取組としては、大変意義のある取組である。スクールカウンセラーについては、県の補助事業の関連もあり、多くの自治体で取り組まれている。スクールソーシャルワーカーについては、県下で非常勤の雇用の関係からも市町村単位では、なかなか配置ができていないと感じている。今後も、スクールソーシャルワーカーと就学支援コーディネーターについては、生徒の状況を踏まえて拡大をさせていくことなどで、子ども達の環境整備を学校と行政が連携して進めていっていただければと思っている。

【教育部長兼教育課長】

総合教育会議については、首長が出席した村の重要な事業についての会議となっている。令和4年度は、第5次総合計画の策定に合わせて、教育大綱も策定する年度となっていたため、令和4年度は教育大綱の策定を主な議題として検討をさせていただいた。

令和5年度からは、会議の回数を増やして実施をしていきたいと考えている。主なものとして、地域部活動やコミュニティスクールについて村長部局との会議を開催したい

と考えている。

ホームページでの公開については、総合教育会議については掲載をしているが、教育委員会について現時点では掲載をしていない。

【溝口委員】

現在の小学生、中学生については、広島や長崎の原爆投下の話を始め、戦争を知らない生徒が多いと思うので、これからのことも考えて継続をしていただきたい事業である。また、1人でも多くの方に知っていただくためにも、多くの方が参加できればと思っている。是非、続けていただきたいと思っている。

(4)「2 生涯学習・スポーツ・文化」について

(5)「3 国際理解」について

【溝口委員】

豊根村や南種子町との交流について、子ども達の交流以外に他の世代との交流も実施しているのか、お聞きしたい。

スポーツフェスティバルやスポーツ教室については、部活動の地域移行における受け皿となるのか、お聞きしたい。

村民体育祭の参加者数から、とても盛んに行われている。他の市町村でも同じであり、私も経験したことであるが、学校の運動会と市町村の運動会が同じ時期に実施されている。このことから、教員の負担軽減の観点から学校の運動会を止めて、市町村の運動会と一緒に実施する考えがあるかについてお聞きしたい。

私どもの大学は芸術大学であり、本学の音楽領域の教員や学生が、社会貢献の意味も含めて地元の子供達を受け入れ、楽器の演奏の仕方を教える取組を始めている。部活動の社会への移行にむけた新たな取り組みの1つと言えなくもない。飛島村では、大きな企業もたくさんあると思うが、企業に協力を依頼している例があれば、教えていただきたい。

コロナ禍により、代替事業である長崎ハウステンボスでの英語研修を実施しているが、コロナ禍での検討を踏まえて、海外派遣事業についてどのように考えているのか、教えて欲しい。

【生涯教育課長】

友好都市交流先である豊根村や南種子町については、子ども達以外での目立った交流はない。以前は、スポーツ推進委員がウォーキングイベントを実施していた。多世代交流までは実施できないが、飛島ペアレンツが豊根村とのスキー交流を実施している。ペアレンツについては、子ども達だけでなく大人も参加した上で交流をしている。

地域部活動の受け皿については、3年か4年前から学園の部活動にあるスポーツ以外を取り入れて、スポーツが苦手な子も取り組めるマイナースポーツと言われるライフロングをスポーツフェスティバルにて実施をしている。現在は、教室としても実施しており、定員に達している状況にある。対象者は、小学生に限らず中学生にも募集をかけて受け皿としても検討できないかと試みたが、中学生は塾や所属している部活動で忙しい状況であった。実際、部活動が地域移行になった時に受け皿となるかは未定であるが、仮に部活動の時間での実施となると講師の確保が課題となる。現在、地域部活動の検討

委員会にて検討をしているが、現時点では飛島学園としては現在の部活動における土日の地域移行を中心に考えられており、部活動以外でのスポーツについては、段階的に検討することになると思う。

村民体育祭と学園運動会については、村民体育祭は住民が中心であり、学園運動会は生徒が中心である。担当課としては、一緒に実施することは難しい状況ではないかと思っている。

部活動の地域移行における企業連携については、現時点では考えていない。愛知駅伝については、積極的に企業に働きかけをして連携している状況にあり、この関係性が地域移行の受け皿につながればとは思っている。

海外派遣事業については、コロナ禍で国外では実施できないが、国内や県内で事業を実施しているので、事業としては継続をしてきている。今年度は、中学3年生と中学2年生の2学年をオーストラリアのケアンズに派遣をする。コロナ禍のこれまでの2年間についても、県内研修や国内研修として実施している。来年度についても、これまでのアメリカに戻すのか、それともオーストラリアにするのかについては、今後検討をしていきたい。

【風岡委員】

英語教室について、定員数に対して参加者数が少ない理由は何か、教えていただきたい。

大人向けスポーツ教室について、定員数に対して参加者数が少ないので、部活動の移行の受け皿として子ども達は参加できるのか、又は対象外なのかをお聞きしたい。

図書館の活動でTwitterを開設したとのことであるが、登録者数をお聞きしたい。また、Twitterの効果をお聞きしたい。

【生涯教育課長】

英語教室の参加者数が少ないことについては、この教室は中学2年生までを対象に実施をしている。この教室は、海外派遣事業に向けて学園での英語授業以外での補完的な役割の教室として実施しており、多くの参加者を見込んだ教室ではないと考えている。中学2年生については、令和3年度は4名、令和4年度は1名の参加であった。少ない原因については、先ほどの教育課の説明にもあったようにホースステイランゲージを月曜日の6時間目に教育課程外で無料にて実施していることにあると思う。生涯教育課で実施している教室は有料であり、ホームステイランゲージとの連携ができていなかったことにあると思っている。令和3年度に受講した4名に関しては、代替事業としての長崎ハウステンボスでの英語研修では、他の生徒に比べて英会話ができていたことを確認できた。教室内容については、実践できる内容であることを確認できた。

大人向けスポーツ教室への子どもの参加については、現時点においても子どものスポーツ教室は十分にあると思っており、SALSATION、ピラティス教室、楽トレッチ教室、バレトン教室については、フィットネス系の教室であり、子どもには馴染まない教室である。新規で実施したサッカー教室については、子どもにサッカーを教えたいという声があり、実施したところ8名の参加があり、講師と参加者のバランスからもこの人数の参加で良かったと思っている。講師としても、対象者が大人と子どもが混じっていると実

施の仕方について迷うこともあるので、難しいと考えている。

【図書館兼プール館長】

Twitterの登録者数については、資料を持ち合わせていないため、回答ができない。
発信内容については、新刊案内や講座案内である。発信内容を確認した利用者から多くの問合せがある。

【溝口委員】

毎年、委員として参加させていただいている意見聴取会で発言をした内容について、次年度には改善がされていると思う。他の市町村のお話をお聞きすると意見聴取会は実施するものの、意見聴取会の内容が活動に中々反映されないということもお聞きする。飛島村の場合は、その点、意見聴取会の内容を検討した上で活動に取り組んでいただいていると思う。今後も、子ども達や地域の住民の皆様方の事を考えて事業に取り組んでいただきたいと思う。

【風岡委員】

生涯学習、文化、国際理解については、コロナ禍という状況にありながらも、着実に事業を実施されていると思う。様々な新規事業が進んでいくと良いと思う。

学校教育については、部活動の地域移行や社会に開かれた教育課程ということで、学校と地域の連携、学校教育と社会教育の連携、教育と福祉の連携が教育課題としてある。

生涯学習や社会教育という観点から、これらの事業を学校教育とどのような関わりをもたせていくか、連携又は協働をさせていくかということ点を点検していくことも必要と考えられる。

子どもの講座と大人の講座を分けて実施することに関しては理解ができたが、一緒に実施するという考えも必要である。社会全体で子どもを育むというメッセージを、生涯学習から発信をしていくことも必要と考える。

【風岡委員】

教育委員会の点検と評価の在り方については、昨年度もお話をしたとおりであるので、割愛をしたい。今年度から新たに始まっている飛島村教育大綱に基づく理念、方針、方向性を踏まえた施策として点検と評価と関連付けてお示しいただけると良いと思った。

事業の取組としては、問題ないと思うが、評価の指標について、何を目標している事業かが分かりにくいと思う。その事業の成果をどのように計っていくのかを点検と評価する必要があると思われるので、検討をしていただければと思う。

【教育部長兼教育課長】

溝口委員、風岡委員の2名の委員の皆さま、貴重なご意見をありがとうございます。この意見聴取会の内容を8月中旬に取りまとめ、委員の皆さまにご送付の上、ご確認をお願いします。その後、教育委員会に報告し、9月議会にて議会へ報告をさせていただきます。その後、ホームページへの掲載も予定をしております。

3. お礼

【教育長】

先生方、ご指導いただきありがとうございました。教育委員会全般に渡る活動につきまして、広くそして深くご指導をいただきました。具体的な指摘をいただき、留意する点につきましてもアドバイスをいただきましたので、今後の活動に生かしていきたいと思います。私達が所管する学校教育や生涯教育においては、毎日の地道な活動がとても大切だと感じています。この活動が、人として成長する上で、又は人として生きがいを感じる上でとても大切であると思っています。今後も、村の子ども達や住民の方々のために、事業を進めていきたいと思っております。本日は、ありがとうございました。